



堀場製作所OB会

会報

通巻31号

発行日 平成24年2月1日

発行者 堀場製作所OB会

川越 幹

編集者 山本広太郎

◆第16期年次総会・

OB会設立15周年記念式典を開催

◆第16期第1回定例幹事会

◆クラブ活動報告

- ・山遊会
- ・釣りクラブ
- ・ビデオ・カメラクラブ

◆堀場OBボランティア活動

「鴨川を美しくする会」主催行事に参加

- ・鴨川クリーンハイク（定例、合同）
- ・第42回「鴨川納涼」
- ・緑綬褒状祝賀会に出席

◆堀場OBキャリア活動

- ・KSVU活動状況
- ・京都モノづくり殿堂・モノづくり工房学習について

◆OB会行事報告

- ・夏の懇親会（がんこ高瀬川二条苑）
- ・レジャー例会 … 光明寺で紅葉狩り

◆東京支部活動

- ・定例会
- ・堀場社長との懇談会
- ・東京設立50周年拡大OB懇親会を開催

◆会員寄稿文

- ・京都の知ってるつもり
「鴨川は暴れ川だった」… 海野興一郎
- ・私の免許証 …… 梶並 強平
- ・伏見はロケの町? …… 石黒 英憲

◆OB会連絡

- ・堀場OB会ホームページ紹介
- ・新入会員紹介
- ・会員の訃報
- ・OB会設立15周年記念誌作成プロジェクト
- ・年間行事スケジュール
- ・事務局連絡
- ・会報、ホームページへの寄稿について

◆ホリバ・ニュース・やぶにらみアラカルト

◆編集後記



京都八坂神社は、地上に幸いをもたらしたスサノヲノミコト、クシイナダヒメノミコト、ヤハシラノミコガミが祀られています。祇園祭は、平安時代、都に疫病が流行したとき、怨霊を退散できるのは、偉大な神に頼るほかないと、これらの神に祈ったのです。写真は、縁結びの末社に掲げられた麻縄で作られた美しい「縁」の文字です。

今年は「縁」と「絆」を念頭において活動して行きたいものです。

第16期年次総会・OB会設立15周年記念式典

会社近況報告 堀場 厚社長

このたびはOB会設立15周年おめでとうございます。

私も社長になって、来年は20年になるが、OB会の皆さんには恥ずかしくない成績を上げることが出来ている。連結売上高1220億円、営業利益135億円、営業利益率の目標はかつての5%が、今は10%としている。今回、円高下でも営業利益率11%を予定している。特に半導体が厳しいが、放射線モニター・ラディエーターがこのたびの震災で、義捐金の代わりに125台を寄付した。



ホリバ製品は環境用として簡単で使い易いと今まで年に100台のものを月に8000台を急遽増産している。値段よりもホリバというブランド力で売れている。増産のため結晶等も世界中から集め、半導体が急速に落ちている中、この製品がカバーしている。自動車、環境プロセス、医用、半導体、科学の5ジャンルがうまく補完が出来ている。そして絶対ディザスターにならない経営を心掛けている。今年開発本部制を敷いた。

今までセグメント制で、事業部的な展開をしていたが、効率が悪い。ホリバエステック、J&Yが成績を上げていく中で、本社が足を引っ張ることになってきた。センター組織ためしかたがないものの、親会社風を吹かせない状況と

なっている。総員5200人の中、今や3200人が海外ホリバリアンとなった。過去は本社に技術があったが、今は本社に技術が無い。むしろ彼ら自身が開発して、彼ら自身が商品政策と販売をする。それを本社がサポートする体制とした。5年前買収したドイツのシェンクは、自動車試験装置、風洞試験器、車重量計、エンジンダイナモ等重さで勝負という会社で、我々の技術では抑えられない。本社がきちっとした数字を握っていないと、彼らは離れていくかもしれない。社長のお膝元の京都はどうかときかかれても、いろいろあるので言い訳はできない。本社の改革が必要になった。

そこでまず開発と営業部隊を一本化することにした。そうするとまた各製品群のパワーが低下するので、13オーナーを創設した。13分野を40歳前後の中堅のホリバリアンを指名し、市場から開発から生産まで通して見るオーナー制とした。開発全体の効率を上げる代わりに、製品別に個別の細かい対応が出来るようにした。開発は足立氏 営業本部長野氏を海外から呼び戻し、彼らをヘッドに置いて、13オーナー制度を敷いた。

組織は生き物で途端に空気が変わり、全体的な把握ができるようになった。円高で1円当たり1億5千万の利益が飛ぶ状況でも絶対に赤字にはできない。組織を変えたことで風通しが良くなった。研究開発投資は、100億円を毎年継続して投入している。ホリバの強みはグローバル展開で、これは外せない。しかし海外の誰かをリプレースしないといけないので、現地の人間を実質的に責任者とした。ヨーロッパでは、フランスJ&Yの社長、アメリカでは元インテルの筆頭副社長がホリバのコンサルタントをしているが、彼を責任者とした。コンサルタントの指摘は、ホリバはファミリー的に展開し

ているという。これには限界があり、悩みでもある。フランス人のJ&Fは1000人おり、彼らはホリバへのロイヤルティーが高い、むしろ日本人よりも高いくらいである。

社是の感覚がフランス人の感性によく似ている。フランス人と京都人はすごい共通点がある。よそ者に嫌われている等も共通している。自分の育った土地やカルチャーに誇りを持っている。

一方アメリカ人と日本人は外から見える木の軸は良く似ているが、根っこの部分は全然違う。しかしフランス人と日本人は、木の種類は違うが、根っこの部分は一緒であり、多くの言葉を語らずとも、以心伝心で仕事が進めやすい。ただこの進め方というのが、4年前に1470億円まで来たが、その時に今までのやり方では、限界ありと感じた。このまま3000億にもっていくのは、リスクである。やはりアメリカ式というか、数字で管理することが必要である。従業員が10000万人になると、壁が出来てくる。インテルは、たくさんの工場を展開してきたが、それをまかされた彼のアドバイスを受けている状況である。

日本はレイオフが無い世界でも少ない国で、海外ではパフォーマンスが悪ければ、いくら親しい人でも会社を辞めなくてはならない。会社も優秀な人がやめてゆく等、緊張感を持ちながら仕事をしている。

日本へ帰ってくると平和ボケの雰囲気がある。リーダーシップの無い首相が二代続いても、国はつぶれない。国民は他人事の様になっている。これが海外だったら許されない。ホリバは次の成長を望むと、少しドラスティックに変わってゆかないといけない。その一つとして、海外にも先ほどの様な人が増えてきている。

一方、投資の方も積極的に行っている。この春には中国上海工場も新しく完成した。ベトナムにシンガポールのオフィスをオープンした。

阿蘇の方は、今はマスフローだけでなく、ホリバ本社の製品も生産している。熊本県での起工式には知事もサポートしていただいた。これには20億ほど投資した。

ブラジルは医学用の薬液を中心とした工場を来年完成予定し、これは7億円の投資。先月フランスのJ&Yの近くのエコールテクノポリティック、ゴーンさんが卒業した工科大学で、ナポレオンが作ったという大学、学長は大將で四つ星を付けた人がいる。

ここで研究所とヨーロッパのヘッドクォーターを置く、これは20億の投資。インドも新しいところへ移転した。東京支店がどうしても山の手線の内側に入りたいということで、淡路町のビルの5階に移転した。景気は厳しいが将来のための投資とした。最近モノづくりでこだわって、そちらの方でどうノウハウをキープしていくか、ホリバが生き残ってゆくには、ハイエンドで対応するしかない。先ほどの放射線モニターも3割は個人が購入、安価なロシアや中国製もあるが、12万5千円もするものを買って頂いているのは、ホリバ製のものだからということが大きい。このブランド力については、ドイツのシエンクが大変強いにもかかわらず、彼らが社名をホリバオートモーティブテストシステムを提案してきた。ホリバというブランド力が大きく認識されている証拠と思う。

最近ラクアという新製品を鳴りもの入りで出したが、すぐトラブルが発生した。これは皆さんのDNAを引き継いでいるものと思う。しかし最近トラブルを長々と引っ張らないで対応が出来ている。我々実務を担ってる企業として、大きな誇りを持っている。

日本人のオペレーションに多くの海外のメンバーがついてきている。今まで皆さんが教えていただいたことが、いい意味でも悪い意味でも花がさき、抵抗力がある状態で経営を頑張っているということで報告を終わります。(抄録)

年次総会・15周年記念式典

平成23年10月6日（木）午後1時から、本社講堂にて、首題の総会と記念式典そして祝賀会が開催されました。今回は記念式併催のため、東京や九州からの参加も加え66人という今まで最高の参加者数となりました。

当日は、全4部構成とし、第1部は、例年通り堀場社長による会社近況についてのご講演があり、最近の会社の動向及び今後の方針等を詳しくお聞きしました。

第2部は、まず年次総会を開催し、前年度の

活動報告、今年度の活動計画と予算承認、古希者のお祝い、新入会員紹介等を行いました。今回は式典との併催で時間短縮となりましたが、皆様の理解を得て、滞りなく必要な承認を頂きました。

第3部は、初の設立15周年記念式典を挙行了しました。内容は、堀場最高顧問によるご祝辞とご講演を式典の主内容として、OB会設立以来功績著しい6人の方々に川越代表幹事から感謝状と記念品が授与されました。また、功労者





代表の梶並強平様から設立時のエピソード等を紹介する等、おもしろおかしく活動してきた愉快的なスピーチがありました。

第4部は、直前に記念写真を撮ったあと、祝賀懇親会として、会場の後部にホテルによるバイキングビュッフェが用意され、最高顧問、社長他多数の会社幹部の方々も参加、お祝いの言葉も頂き、大いに歓談の花が咲きました。そして会社からのビッグプレゼントとして、記念品(パソコン)を社長からOB会に頂戴しまし

た。

また同会場にはOB会員による絵画、写真そして陶芸等会員自慢の作品を数々出品して頂き、芸術の秋?を演出、式典会場に潤いを添え



ていました。

お開き後、全員に末富さんの京菓子を記念品として、お持ち帰り願いました。

◆記念式典の詳細は、15周年記念誌に掲載します。

◆古希お祝い金贈呈者 (7名 敬称略)

水野 富美雄 秋山 重之 玉置 健三 塚本 時弘
菅生 博之 藤井 邦子 小島健之助

◆功労者表彰者 (5名 敬称略)

西尾 勝治 大志万繼影 萩原 孝一
小谷 昌男、山本広太郎



OB会設立15周年記念式典の開催まことに
おめでとうございます。私も発足時のことはよく覚えている。還暦を迎えて70歳まではいつ死んでもいいと思っていた。しかし70歳では、もうすこし何かやることがあると、丁度OB会の発足があって、なんで若い人がOBなのかと思い、まだまだOB会の人には負けられないと思った。それから15年、80歳になったとき命が惜しくなった。知らないことが歳とともに増えてきた。これらを確かめたいと思った。



岩波新書の15巻の1巻目を1年かかって読んだ。あと14年100歳までかかる。また宇宙物理の本が14巻出たが、また時間がかかる。読み残して棺桶入ることはできない。こうして毎日を過ごしている。皆さんも大学を卒業してOB会に入っているが、その大学の評価はどうして行われるか、現在の学生の質とは関係なく、大学を卒業したOBがその後どう活躍をしたかが、もとの大学のレベルを決める。堀場のOB会は凄いなあ、あの人が堀場OB会の人かと思われるか、なんだあの人は堀場のOBなのか、堀場はたいしたことはないと思われるのは、紙一重の差で、ぜひ堀場のために毎日毎日素晴らしい人生を送って頂きたいと思う。

私は各所でのスピーチ時、櫃まぶし人生と

言っている。名古屋のうなぎ丼だが、まず蓋をあけてウナギを一口食べていっぱいやる。次にご飯とウナギを混ぜうなぎ丼として食べる。それからわさびをのせて熱いお茶をかけてウナギ茶漬けにする。材料は一緒でも食べ方によってぜんぜん味や雰囲気が違う。人生も同じで、皆さんはまだお茶漬けまで行っていない。私はようやくお茶漬けにしようかどうか悩んでいる段階だ。皆さんも人生に一つのきりをつけて、発想や立場を変えることによって、自分にはこんな味もあるということを手で見ることが絶対必要と思う。何か目標を決めて、ひとつひとつアプローチ、挑戦するといい。そうすると命が惜しくなる。普通なら、分からないことが分かってくるはずだが、ところが逆に分からないことがますます増えてくる。これは不思議だが、生きている証拠でもある。元気で生きていくと分からないことが増えてくる。動的平衡（互いに逆向きの過程が同じ速度で進行することにより、系全体としては時間変化せず平衡に達している状態）というものが曲者で、人間には60兆ほどの細胞がある。その細胞がどんどん入れ替わっている。早いものは三日位で入れ替わる。一番遅いものでも一年くらいで入れ替わる。皆さん方それぞれに名前があり、顔つきも分かる。しかし一年間残っている細胞は一つもない。それを自覚するのは、爪や髪の毛で、髪の毛は抜けても生えてくる。爪も同じだ。身体全体がそうになっている。前の人間と見たところ同じだということが不思議ではしょうがない。赤ちゃんも育ってきて、細胞が入れ替わっているとともに、だんだん細胞も増えてくる。そしてある時点で止まる。この時間コントロールは誰がしているのだろうか。細胞からいろんな組織になって、それが器官になり、臓器になってい

く。個々の細胞を見てもそれが胃袋の細胞なのか、腸の細胞なのか、心臓の細胞なのかよく分からない。NK細胞とかIPS細胞は何にでもなるという。60年も70年も80年も誰が時間制御をやっているのか。細胞は長いものでも一年間で入れ替っている。いったい誰が命令しているのか、著名な学者は多いが、誰にも分かっていない。それが証拠に科学技術がどんなに進んでも、単細胞一つできない。それでも大きな顔をして生きているが分からない。これでは死ぬにも死ねない。このまま死んだら大きな顔をしたものが、益々大きな顔をする。これが癩に障るので死ぬわけにはいかない。

1997年に複雑系という一つの考え方があった。一回性という。あらゆる事態において同じことは絶対にない。瞬間、瞬間これ日々新たに、一日、一時間、一分間、一秒間、同じものはない。明日同じ時間に同じ皆さんに同じ席に座って、私が同じ様な話をしても全然違う。我々の人生も一回たりとも同じ繰り返しは無い。これはサイエンスの世界とは違う。サイエンスは、我々製造業に譬えると、昨日作ったものと今日作ったものと明日作ったものも同じものが作れる。これが品質管理だ。たまたま同じものが出来なかった時もあるが、本来は同じ様に作らないといけない。日本の製品が何故世界中に受けたかという、品質管理が素晴らしかったからで、梱包を開けて、コードを電気に差しこんだら必ず働く、アメリカの製品とかフランスの製品というのは、必ずしもそうでない。私もいろんな国のものを買うが、電源に差し込んですぐ働く場合は、ラッキーと思う。蓋を開けてみるとどこかの半田が外れていたり、フューズが入っていなかったりする。日本の製品は100台が100台とも異常がない。再現性のあるものをサイエンスという。1 + 1 = 2というのは、アメリカ行っても中国行っても日

本にいても1 + 1 = 2だ。ベトナムへいったら1 + 1 = 3になったり、アフリカへ行ったら1 + 1 = 4になったりはしない。昨日も1 + 1 = 2で明日も多分1 + 1 = 2なのだ。しかし人間というのは全然サイエンスと違う。分かりましたと言っておいて何もしない。また約束しておいてもするかしないか分からない。同じことは絶対できない。これを一回性という。しかしこれは素晴らしいことで、二度と同じことが無い。ということは、人間は瞬間、瞬間的にしか自分を確認することができなくて、一秒あとに戻れない。

テレビなどでタイムマシーンというのがあるが、これらはフィクションで、交通事故で死んだ人が、一億積めば一秒前にさかのぼれるのならば助かったかもしれない。一秒前に2300円の時買って、一秒後に2400円で売れたら、これを10回、20回繰り返せば、ポロ儲けになる。そうかといって一秒先のこともわからない。一秒一秒過ぎていて、多分この次の一秒も生きているだろうと思うから心配していないが、本当は、マグニチュード9の地震が起こって皆死ぬかもしれない。一寸先のことは絶対わからない。後にも下がれない、前もわからない。それが一回性というものだ。自分が安心できているのは、いまの瞬間なのだ。何をすべきか、瞬間、瞬間に自分の最大の状況をつくるということだ。美味しいものを食べるときは、本当に美味しく食べないといけないし、仕事するときは、本当に頑張らないといけない。喧嘩するときは本当に喧嘩しないといけない。寝るときは本当に寝ないといけない。瞬間、瞬間というものを大切に、人間は、今までの瞬間の積み重ねによって生きているものだ。私が一番好きな言葉は、アランケイという人がパソコンの基本コンセプトを1970年台に作っ

た。その時彼は二十歳代の若い技術屋で、その人が20世紀の終わりころには、みんなが手に持てるパソコンが必ず出てくるといった。1970年代では、コンピュータというものは酷いもので、この演台一杯の大きさで、真空管が何千本と並び、真空管の熱を扇風機を並べて冷やしていた。その能力は、今皆さんが持っているパソコンの五分の一か十分の一しかない。そんな時代に、今世紀末には、パソコンが出来るといった。皆な頭がおかしいのと違うかと馬鹿にしたが、現実には1990年の半ばにパソコンが出来た。それでその人は有名になって、30年先に近いことを読むことが出来る凄い学者ということになって、マスコミがあなた凄い、20年30年先のサイエンス的な予想がたつと、じゃー2020年はどんな世界になっているかと問うと、彼はそんなことは分からない。未来というものは、予想するものではない。また、予想はできない。未来というものは、自ら自分が作り上げてゆくものだといった。彼は、それを言ったあとパソコンの開発に全力を注ぎ、出来上がったものだ。勿論ビルゲイツのウィンドウズも彼のコンセプトで作上げたもの。これは本当に凄いことで、私にも将来はどのようになるとか尋ねる人が沢山いる。自分のことも分からないのに人のことまで分からない。しかしただひとつ言えることは、これから10年先20年先どんな人間になろうかと目標を決めてその目標を達成するために全力をつくすことが、未来の自分に対する保証である。それがために瞬間、瞬間を出来るだけのことをすることが、自分の未来を作ることである。堀場製作所の未来はどうなるかはわからない。現在の社員、OBの皆さんがどんなことで未来を作り上げてゆくかということが、堀場の未来を作り上げ、未来を保証してゆく。うな井の話の様に、同じ材

料でいろんな味が出る、自分はこんな味しかないと思わないで、どうか三種類の味だけでなく、5種類でも6種類でも味を出して人生を豊かにすごしたい。死んで天国で遊びたいと思っている人もいるかもしれないが、保証されるのは今だけである。手じかな未来についてどうするのかを思っているだけでも楽しい。CO2温暖化なんか嘘ばかりであるが、しかし皆金儲けをしている。日本が一番損をしているが、アメリカは、バイオエタノールでとうもろこしからアルコールが出来るといった瞬間、ああ凄いといって、とうもろこしの値段が2.3倍になった。そんなものパーボンウスキーだ。以前から作っている。とうもろこしが上がれば、大豆も上がる。小麦も上がる。

今アリメカの農村は超大景気となっている。それにはCO2温暖化、温暖化と言っておかなければならない。EUも温暖化、温暖化で、排出権取引で小さい国を一杯入れている。そんな国は、排出権がいっぱいあり。それを売りつけようとしている。

ウクライナの総理大臣とかが来て、日本に770億円で排出権を売ると言ってきた。よく聞くとそれは証書一枚で、有難うございましたとなる。日本はその分日本のCO2を差し引いているが、誰もこの話を不思議と思わない。ましてウクライナでは、どうしているかわからない。半分が流用されたと聞いた。このように分からないことが多いから、ぼつぼつ命のある間に解明するのも一つの生き方だ。分かっていると思っている人は、他の人に分からないだろうという不安を押し付けて、その人が分かるまで教育するとその人にとっては長生きとなる。さて、現在私の場合は、出張以外は、会社にいるので、訪ねてください。（抄録）

定例幹事会

16期第1回定例会

平成23年11月11日（金）14:00～16:00 堀場本社OB会室に於いて、総会后初となる第16期第1回の定例幹事会が開催されました。

出席幹事は、石黒英憲、梶並強平、川越幹、小谷昌男、田中光子、谷口義晴、森山晶成、山本広太郎（50音順）8人でした。なお、他の幹事は、酒井俊英、船越健 計10名

まず10月6日に行われた第16期年次総会と堀場製作所OB会設立15周年記念式典について、それらの運営状況の評価と反省等を行いました。祝賀会は初の開催ですが、会社の全面的な協力と東京からも多数の参加を得て、盛大かつスムーズに挙行することが出来ました。

幹事三役の選出については、前期に引き続き、代表：川越 幹、副代表：小谷昌男、山本広太郎、会計：田中光子が選出されました。会社との定例連絡会議は、前期に引き続き小谷昌男、山本広太郎が担当します。

目玉は「事務局」の設置で、情報の集約と発信の効率化を行います。山本広太郎担当
東京支部の活動の活発化：定例会および研修会の開催、さらにボランティア活動も検討

16期のOB会の活動コンセプトとして「社会への貢献と会社への協力」を念頭におき、各

幹事がテーマ毎の専門リーダーとなり、分担して諸活動を進めてゆくになりました。

◆16期の主な活動計画は以下の通り。

- ・今回の式典を機にこれまでの活動の歴史を残すべく「堀場製作所OB会記念誌」を作成
- ・キャリア活動：モノづくり工房での小学生の理科教育をOB会が専門的に受託
そのためキャリア活動要員を増員予定、KS VUの人材登録の積極化推進
- ・ボランティア活動：鴨川を美しくする会への参画を継続およびさらにボランティア活動の拡大・活発化
- ・年一回の旅行：日帰りと一泊の交互実施をやめ、コストパフォーマンスの高いプランを厳選して実施
- ・春、夏の懇親会の実施、バラエティーを広げ、参加者の拡大を図る。
- ・その他諸行事の年間行事予定表の公開、常に情報を更新しHPにアップ、より多くの会員の閲覧をお願いしてゆく。

その他

- ・記念式典の集合写真は、12月に今回の出席者全員に郵送することにした。
- ・会社から15周年記念として、パソコンを記念品として頂きました。有効に活用する。

クラブ活動

山遊会

— 第19回例会 —

- ・実施日：平成23年10月29日（土）・快晴
- ・行先：比良山系権現山(996m)・蓬萊山(1174m)
- ・参加者：池田 俊明、萩原 孝一、下川 和子、森本 順孝、下川 博司、丸山 博

当初10月22日の予定が今回も雨天のため1週間延期を余儀なくされた。午前7時30分出町柳駅前に集合し、7時45分発京都バス朽木学校前行に乘車。登山客が多く増発バスに乗り込み8時31分平駅で下車、取りあえず登山

口に向かう。

8時50分出発、杉の植林で日光が差し込まない谷筋の急坂を登り9時30分アラキ峠で小休止。ここから尾根筋に変わるが急坂が続く。植林地帯を過ぎ明るい自然林になったところで視界が拓け、遠くに愛宕山を望む。傾斜が緩やかになり10時10分権現山に着いた。ここからは琵琶湖が一望できるが、今日は天気良すぎて少し靄っている。

汗ばむほどの太陽のもと、小女郎峠までゆっくりのんびり稜線歩きを楽しむ。今年は9月の台風で木の葉が落ちてしまったとかで、紅葉は絶望的である。11時25分小女郎峠に着き小女郎池へ下る。ビューポイントで池と蓬莱山を背景に記念写真を撮り昼食休憩とする。

12時30分小女郎峠まで返し、蓬莱山山頂まで本日最後の登りを行う。13時5分三角点

を踏み「彼岸の鐘」の前で2枚目の記念撮影。スキー場を下り打見山ゴンドラ山頂駅へ、本日の山行はこれで終了。チケット売り場を探してうろつくうち、14時発のゴンドラに乗り遅れ20



分待つはめに。これが裏目に出てJR志賀駅行きのバスにも間に合わず、15時15分発まで45分待ちとなり、蓬莱駅まで歩くことにする。バス道と国道を40分ひたすら歩き、JR蓬莱駅発15時27分に乗り帰京の途についた。

— 第20回例会 —

- ・実施日：平成23年11月25日(金) ・晴
- ・行先：中山連山 中山最高峰(478m)
- ・参加者：池田 俊明、下川 和子、下川 博司
高橋 義治、丸山 博

今年の例会山行は、3回連続して延期を余儀なくされるはめに。1週遅れて実施したが、今回も晴天に恵まれる幸運を得た。当初はオブザーバーを含め10名の参加予定が半減し、延期の影響は小さくない。阪急河原町駅午前7時30分の集合時間前に全員集合、予定より1台早い7時29分発梅田行き快速急行に乗り込んだ。十三駅で宝塚線に乗換え山本駅で下車。9時丁度に山本駅を出発。9時



汗まみれで登りきり、丸山さん持参のコーヒーで身体を休め展望を楽しむ。真南に伊丹空港、その先に大阪市内の高層ビル群を望む。中山連山は馬蹄形をしていて、内側は団地で埋め尽くされ、山際まで造成地が迫っている。外側東と北は2つのゴルフ場が取り囲んでいる。稜線のアップダウンを進み、11時20分標高362mの標識点で小休止、西に六甲山頂を遠望する。道の両側にフェンスのある無粋なコースが続くなか、12時15分最高峰に到着、早速昼食休

憩とする。記念撮影後12時55分出発、13時30分中山寺奥の院に立ち寄る。境内は紅葉が美しい。ここから奥の院参道と清荒神コースに分かれるが、今回は参道を下る。途中14時10分夫婦岩で一休み、宝塚市内が一望できる。住宅横の狭い石段を降り中山寺に15時に到着。境内を進み、本堂にお参りして阪急中山駅を15時25分発に乗り、16時30分鳥丸駅で解散となった。

釣りクラブ

— 7月度例会 —

7月14日（木）、早朝2時50分に島田剛さんの車を自宅の駐車場に迎え、同行者の下川さん宅に寄り、今回の釣り行きの待ち合わせ場所の大原のコンビニに3時20分に到着した。すでに、村田さんの運転するもう1台が、丸山さんと池田さんとともに待っていた。

挨拶もそこそこに、早速に出発した。朽木溪谷のすがすがしい空気と平日の車の少なさに気分よく運転出来るはずであるが、最近鹿が多いため、安全運転で夜明けの涼しい道を走り、朽木より国道303号線への峠を越え、上中の手前の釣り具屋「若狭堂」で仕掛けや重りの小物を購入し、上中の国道27号線のコンビニにて、朝食を取り、今回のキス釣りに世話になる林渡船に5時30分に到着した。早速、氷等を購入し、船の釣り座を抽選し、6時前に波のないが、太陽の光が厳しい若狭湾の中の小浜湾にゆっくり出港した。

船は、トイレ付きの30名は乗船できるキス釣りには、大きすぎるくらいのもので、あまり揺れず快適な釣りが出来る。今回は、6名が両サイドに3名ずつ分かれて釣るように船長よりの指示で、左舷の前より、丸山、池田、西田、右舷前

よりの下川、島田、村田の各氏が釣り座と取った。船長の勧めで、1人2竿を出してもよいとのこと、下川さんと私は、2竿セットした。島田さんは、いつも通り手釣りにこだわった。

堀場釣りクラブで6月18日に開催した同じ林渡船のキス釣りでは、大きいキス(29cm)が、4匹ほど釣れ、今回の釣り行きが決まった理由となったが、今回は、大きいので、塩焼後の寸法



で、25cmで、多分釣った時は26cmと思われるものが最長であった。

(7月17日の昼食で食べたときに実測した。)しかし、前回よりも、少し小さいが数は多く釣れた。1人平均40匹で、竿頭は、73匹 少ない人で23匹であった。

よく釣れた条件として、風があまり強くなく、船が流されなかったことで、重りが15号から35号で、釣れたこと及び、海水温度が高く食いが良かった。昨年の6月6日に行った時よりも約倍の釣果に恵まれた。1時半ごろ帰港したが、太陽がざらざら、サングラスに、麦わら帽子が必須で、暑

さに耐えて良く頑張ったという感じで、皆さんお疲れさんでした。それだけに、帰宅後の夕食時の冷たいビールと、キスの塩焼きは、最高でした。

なお、キス以外の釣れたものは、ふぐ、鰻、小鯛、虎キス等でしたが、とりわけ、「鰻と小鯛の甘酢あんかけは、最高の料理でした。

— 8月度例会 —

8月18日（木）、早朝 3時過ぎに自宅出て、大原のコンビニに3時35分に 予定より少し遅れて到着した。すでに、丸山さんと池田さんが待っていた。遅刻をお詫びして、早速、出発し5時30分ころに到着した。

今回の釣りは、丸山さんの紹介で、民宿、筏等を行っている広田で、釣り船は、広田丸 トイレ付きで、竿受けも、セットされており、5人で釣りをするには、余裕あり。棧橋で荷物 降ろしそのまま駐車できるので、アプローチは非常に良い。釣り座を抽選し、6時に出港した。釣り座は、前に、宮崎、中に下川、及び西田、艫（船尾）に池田及び丸山の各氏と決まり、仕掛けをセットし竿を出した。今回は、小鯛及び鰻が目的で、胴付サビキ6本針、3号ハリス、重り40号、餌は、オキアミで、最初は、撒き餌なしで、小鯛を狙った。

出港より約10分で、釣り開始し、15cmから20cmのレンコ鯛が釣れ出した。小さい鯛ではあるが、引きも強く姿を見るまでは、期待を持たせてくれるので、面白い。その後撒き餌かごを着け、アミエビを撒き餌として、鰻を狙い移動したが、鰻が釣れず、カワハギばかりで、しかも殆どが馬面ハギで、たまに本カワハギの良型が見られた。朝の予報では、12時ころより雨とのことで

あったが、雨も降らず、波は、1mぐらいで、釣りとしては、比較的良い条件で釣りができたが、後半は当たりがなく12時半ごろ帰港した。私の釣果は、小鯛-8、鰻-2、カワハギ-15、真ハタ-1（32cm）、ガシラ-2、ベラ-1、カワハギ-15、真ハタ-1（32cm）、ガシラ-2、ベラ-1 であった。他のメンバーも同じくらい釣っていたようである。



特に丸山さんは、40cmくらいの真コチ、下川さんは、良型のアジ、池田さんは、良型の本カワハギを釣っていた。今回は、鰻が釣れず、数を釣って、干物を作ろうと思っていたが、期待は、無情にも消えた。15時ごろに帰宅し、早速、獲物を前処理し、夕食には、油の乗った真ハタのサシミ、カワハギの煮浸け（肝付き）で、酒は、良く冷えたビールと白馬のハイボール、昼の暑さに耐えて、ゲットした獲物の味は、格別でした。

— 11月度例会 —

今期最初の釣りクラブの釣りは、鯛・イカの半夜釣りを、日本海は、若狭湾舞鶴沖の冠島周辺で行うことになった。船は、東舞鶴の市役所近くに係留する瑞祥で、船長の田中さんとは、同じ高校の同期生であり、釣りでは長い間世話になっている。釣り行きを決める前に、電話で状況を確認すると、真イカがコンスタントに釣れているとのことで、今回の釣りが決定した。

参加者は、下川、丸山、池田、宮崎の各氏と私の5名で、船をチャーターすることが出来た。午前9時の京都縦貫道の手前のコンビニに集合し、2台の車に分乗して、東舞鶴を目指した。天気予報では、曇りのち雨、波1mとことで、出港12時は、問題ないと思って、西舞鶴に入った時に、船長より電話で、波が高くて、出港を1時すぎに遅らせるとの連絡があった。そのため、時間待ちで、舞鶴湾から若狭湾を見渡せる展望台のある五老ヶ岳公園に行き、五老スカイタワー(海拔325m)の頂上の展望室より360度の雄大なパノラマを、秋の深まりを告げる紅葉とともに楽しんだ。昼食を取り、港に1時に到着し、午後1時30分ごろ出港したが、北からの波が少しありたまに大きな波が来て、スピードが、あまり出せずしかも、出港30分位してから、浮遊しているロープが、船のスクリューに絡まり、エンジンを停止させた。スクリューの上部ハッチを開けて、ロープを無事に切り取り、エンジンを始動し目的地に向かうも波はまだおさまらない。午後3時ごろ目的の冠島の雄島と兎島の中間の漁礁に到着した。水深約70mとの船長の指示で、全員天秤ズボ、重り60号で、餌はオキアミ、撒き餌もオキアミで釣り始めた。

池田さんは、竿を出す前に、船酔いでダウンし、丸山さんは、竿を出してから、20分も経たない時間で同じく、船酔いでダウンして、キャビンで寝込んでしまった。

潮もあまり流れず、風があり、また、波があるので、船首の釣り座にいる私には、魚の当たりが、取りにくくまた、糸が絡みやすく非常に釣りにくい。最初のポイントは、すぐに餌取りに餌を取られたので、船長が少し船のポイントを移動してから、小鯛が釣れ、その後、アジ、イサキが釣れたが、数は少ない。最初は、ハリスを9mにしていたが、池田さんが、釣りをしなくなったので、12mに変えたのが、良かったのか悪かったのか不明。



天秤ズボ釣りでは、ハリスの長さや潮の流れと重りを止める位置により釣果が変わり難しい。銅付き仕掛けのほうが結果的には、良かったかもしれない。釣れたアジは、長さ35cmで大きく良いアジであった。5時半も過ぎて、日が暮れたので、同じポイントで、イカ釣りに変えた。重りは、70号、仕掛けは、豊後スツテ7本仕掛けで、第一投を入れると、底で早速当たりがあり、同調20cmくらいの真イカ(剣先イカ)が釣れた。釣れあげてからが大変で、特に豊後スツテは、3mの間隔の糸でつないであるの

で、長いために、再投入するときに、風と波により、糸が流れ、スツテに絡まり、釣っている時間より、絡みを取っている時間のほうが長いので釣果が出ない。そのため、途中より、1.5 mの間隔の短いスツテに変え、数も10本に増やしたところ、そこそこ釣果が上がった。8時過ぎごろより、波も少しましになり、丸山さん、池田さんイカ釣りを始めた。9時過ぎに、釣りを止めることにして、納竿となった。イカは、胴長15から25 cmで、前回のイカ釣り時より大きくなっており、当たりも、釣りごたえも非

常に良く楽しめたが、下川、宮崎氏も船は酔ったが、釣りは止めず、船長もびっくりでした。私は、馬鹿なのか、船には、いまだ酔ったことは、ありません。今回は、天気予報よりも、波が高かったり、出港が遅れたり、スクリューの絡まりがあつたりと色々ありましたが、とにかく無事で、翌日に京都及び大津に帰りました。なお、釣果は、1人で、大型アジ、イサキが、1から数匹、イカは、40匹前後でした。船酔いで、イカだけ釣った方は、1人、十数匹程度でした。全て美味しい獲物でした。

ビデオ・カメラクラブ

平成23年12月7日(水)OB会教養レジャー、西山の名刹「光明寺」例会にて、カメラ・ビデオクラブも併催で、クラブ活動を行いました。



光明寺は、紅葉では大変有名ところですが、残念ながら当日は、そのピークは過ぎていましたが、木々によってはまだまだ紅が残っており、また、黄色の葉もあり、撮り方によっては、十分その美しさを撮影することが出来ました。また、落ち紅葉も大変風情があり、それをお寺のおばさん達が竹箒で掃いている風景も、絶好の被写体となり得ました。



一般には、最盛期のみ集中しがちですが、今回はたまたま少し時期が外れたことが、逆に面白い作品が出来ると思いました。

技術的には、被写体を逆光線(太陽を入れない

ようにして)で撮ると紅葉が紅いフィルターの様になり鮮やかな色に写りますので試してください。写真1は、光明寺の総門近くの紅葉で、白い塀をバックに赤と黄色が見事に交錯したものです。写真2は、御影堂の横にまだ赤色を保っている紅葉を配し、御堂の白い障子が格調の高さと気品を漂わせています。

写真に興味ある方のご参加をお待ちします。今回の参加者は、西尾勝治と川越幹でした。

堀場OBボランティア活動

鴨川を美しくする会主催

ー 鴨川合同クリーンハイクに参加ー

平成23年10月16日(日)、昨日の雨とは打って違って当日は抜けるような秋空のもと、鴨川合同クリーンハイクに参加しました。丸太町橋西北詰めに10時前には、堀場OBロゴマーク入りジャンパーを着て、周田、石黒、森山、秋山の4名が集合しました。

出発に際して、杉江事務局長からご挨拶と注意事項がありました。昭和47年から始まった「鴨川を美しくする会」は、この春にはこの鴨川の美化運動の功績に対して叙勲(緑綬褒状受章)の報告がありました。ここ数年は参加者も増え(本日の参加者1600名)、付近をジョギングや散策する人達も多くなりましたが、我々もこの鴨川をさらにきれいに維持することの大切さを再認識して欲しいとの要望がありました。続いて、京都府副知事による激励の挨拶の後、左岸と右岸に分かれて、丸太町大橋西詰を起点に、左岸と右岸の2班に分かれて下流の五条大橋に向かって出発しました。

この日は、前日の大雨による水かさが増しており、水面はやや透明度を増しつつあるものの河川敷の水辺近くは、上流からの枯れ木、ポリ

シート破片や布切れなどが散見された。我々と前後して家族連れのゴミ拾い、特に小学生の子供たちにとっては親子のふれあいの場でもあり生きた環境教育ができるなど素晴らしい光景でした。

トピックスとして、周田さんが、二条橋付近の水辺で半ば泥をかぶっていた未だ有効期間のある運転免許書を拾い当てました。事務局に遺失物届けの手続の後、メンバーの集合写真を



撮って解散しました。今回は、休日の早朝から心地よい汗をかきながら、ボランティア活動に協力できた達成感を味わうことができました。

鴨川を美しくする会主催

ー 鴨川定例クリーンハイクに参加ー

平成23年11月6日(日)「鴨川を美しくする会」今年最終ボランティア活動に参加しました。折しも曇り時々雨の予報のもと、今回の参加者は、梶並強平、萩原孝一、酒井俊英、川越幹の4人で、丸太町橋西詰から北大路橋まで約3kmの清掃ハイキングを行いました。

丸太町から上流方向は下流に比べてどちらかというゴミは少なく、注意しないと見過ごすほどでしたが、それでも皆さんミクロの

目でそれぞれ清掃効果をあげていたようです。



今年最後の行事として、同会の古森恵子会長から今年一年のお礼と今後の協力を託され、今回新たにバナソニックからの参加もあり、皆それぞれ協力することを誓い合いました。

当日は、国民文化祭行事の一環として、近く

の下賀神社にて、「京のいけばな展」があり、解散後鑑賞に行った方もおられました。今後ともOB会のボランティア行事として継続してゆくので、初めての方々もどんどん参加されてはいかがでしょうか。

鴨川を美しくする会主催 — 第42回鴨川納涼に参加 —

8月6日、7日に第42回の「鴨川納涼」が三条大橋と四条大橋間の西岸河川敷で開催され堀場OB会から4名がボランティア参加しました。暫くの間、涼しい日が続きましたが、開催の両日は猛暑日となり暑さと人混みで大変な二日間でした。

鴨川納涼は昭和44年から始まり、歴史のある河川普及啓発活動で堀場OB会は平成21年より参加を始め、今年で3回目の参加となります。

堀場OB会の役割は、会場の安全管理で南エリアを担当、エリア内での巡回警備で、トラブル等のチェック、人混みの誘導などが主な役目でした。

昨年より「京の七夕」と題して堀川会場、鴨川会場で多彩な催しが開催されており、このため多数の人が「鴨川納涼」会場に流れ込み、狭い河川敷には全国ふるさと産品展示即売店や啓発コーナーが建ち並び、会場を通り抜ける人と品物を求める人とで歩くのも大変な人出の状況での巡回警備でした。



会場では、京都の伝統的な「友禅流しファンタジー」友禅流しが再現され、特別ステージでは歌や踊りで多くの観客を集め賑わっていました。

参加いただいたOB会の皆様、暑い中ご苦勞様でした。トラブルも無く無事に役目を終える事が出来ました。

来年以降も継続してボランティア参加する予定ですが、従来は参加メンバーが限られていましたが、来年がフレッシュな若いメンバーの協

力をお願いします。

◆参加者

- ・6日 梶並 強平さん 石黒 英憲さん
- ・7日 酒井 俊英さん 山本広太郎さん

鴨川を美しくする会主催 — 緑綬褒状受賞祝賀会に出席 —

堀場製作所OB会のボランティア部会が参加している「鴨川を美しくする会」が、国から春の褒章として、緑綬褒状を受賞しました。これは1960年当時の京都、工場排水や投げ捨て

ゴミ等で汚れていた鴨川の河川敷を見るに見兼ねた市民が集まり、40年以上にわたって清掃を続けてきたことが今回認められたものです。

六色の褒章のなかでも、緑綬褒状は「自ら進んで社会に奉仕する活動に従事し徳行顕著なる者」に与えられるもので、京都府では他の一団

体と合わせ二団体が受賞しました。

この受賞を記念して、平成23年7月30日（土）京都平安ホテルにて、受賞祝賀会が開催され当OB会を代表して参加しました。

祝賀会は、発起人でもある山田啓二京都府知事および門川大作京都市長の挨拶で始まり、美しくする会の古村恵子会長の謝辞がありました。その他いろいろな次第が進行し平素お世話になっている杉江貞昭事務局長が式典を取り仕切り、数十人の参加者はそれぞれ受賞の式典を祝い合いました。

明治から始まった褒章制度の中で、緑綬褒状は、今日的には、ずばりボランティア活動に

対して与えられるもので、OB会の参加もまさに当を得た活動といえるでしょう。

OB会の皆さんもボランティアにぜひ多数ご参加ください。



堀場OBキャリア活動

NPO法人京都シニアベンチャークラブ連合会活動状況

京都シニアベンチャークラブ連合会の23年度事業の進捗状況とトピックス

①「中小企業支援ネットワーク強化事業」の推進（近畿経済産業局）

京都市のプラットフォーム事業をASTEMと連携して中小企業・ベンチャー企業の経営・専門技術のコンサルティング・人材育成を行うOB人材の発掘と中小ベンチャー企業の要望へのマッチングを行う。

（目標50件）

★【進捗状況】12月現在、上級アドバイザー 中小企業XOB人材 マッチング40件

②京都府地球温暖化センターと連携した省エネ調査・改善指導（京都府）京都府内50事業所を目標、省エネ研究会 25名が参画

★【進捗状況】12月現在、中小企業支援 20社中18社完了、2社 暫定診断待ち 京都府の公共施設（警察・高校等々）診断

32施設の内 25施設

③「大学発掘技術シーズの活用支援事業」（京都市）

大学のシーズと中小企業との連携支援事業をASTEMと連携して実施（大学技術シーズを中小企業向けに解り易く解説した技術シーズ集の作成）

★【進捗状況】12月現在、中小企業向け解説技術シーズの試案が完成、本年度中に京都市芸繊維大学の50技術シーズを完成の予定

④京モノづくりの殿堂・工房体験学習支援活動（京都市教育委員会）

京都市内70小学校 4,500人の指導予定 モノレンジャー 84名に増加、京都企業から新しい教材が続々と出現中

★【進捗状況】12月現在、1～3月のスケジュールが過密状況

【トピックス】10月20日 京都市教育委員会より京モノレンジャー10名に感謝状が贈呈された。

⑤ヒアリーハット情報活用指導員（京都府）

8月度より26団体に指導・支援活動を実施予定

⑥京都OB人材を活用した『被災企業支援サポータ事業』（京都市）

KSVUを中心とした豊富な人材を被災地等に派遣し、現地で事業活動を再開・復興を目指す被災企業の多種多様ニーズを把握しオール京都企業からの提案を募り、マッチングを図る。

★【進捗状況】12月現在、被災地 宮城・仙台に計6回訪問 被災地要望をオール京都発信し支援を図る。

津波災害養護老人ホームに体温計・血圧計・マッサージ器を送る。

宮城広域商談会に京都企業5社の参加をサポート 宮城220社との商談会開催
仙台市産業振興事業団と支援について協議
京都で講演・商談会開催を決める。

【トピックス】「東日本大震災復興支援特別企画～手を繋ごう、杜の都と京の都～」開催
(主催：京都市・KSVU・ASTEM)

12月8日 10:00～16:00

KRPサイエンスホール・ホワイエにて開催、門川市長／仙台市産業振興事業団那須野部長挨拶、京人形贈呈式

・講演「震災復興の大きな力」

東北大学教授 堀切川一男

・講演「東日本大震災からの復旧・復興への道筋」 (株)吉岡 初谷 博専務

・仙台中小企業9社 プレゼンテーション
展示、商談会参加者 112名

⑦「OB人材等紹介システム構築モデル事業」

(日本立地センター受託事業)

国においては「OB人材紹介システム」の構築を検討されており、本事業は当該紹介システムの中核となる企業OB人材のデー

タベースのモデルを策定しようとするものである。47都道府県より特異な企業OB人材を調査・データ化し活用するものです。KSVUにて調査・データ化を図ります。

★【進捗状況】12月現在、1次2次3次4次とアンケート調査実施。結果、企業OB団体36団体中8団体の申込み。現在人材登録中 87名 (KSVU34名)

⑧その他

◆講演会

11月30日「希望ある健康高齢者社会の実現をめざして」

京都経済同友会代表幹事 田辺親男医師
参加者51

◆企業訪問

1月25日14:00～予定、オムロンヘルスケアー 向日町新本社見学 募集

◆現在KSVUは8団体ですが加えて本年度中に3団体の加入を調整中

【トピックス】京都市自治記念式典でKSVUが表彰される。

京都市が自治113年を迎えた10月15日の自治記念日に「京都ならではの知恵を生かした地域の活力を高める活動」に対して、京都会館にてKSVUが表彰をされ、栗田理事長が出席・表彰状を頂きました。

詳細・写真等はKSVUホームページ

URL <http://:ksvu.or.jp>をご覧ください

※京都シニアベンチャークラブ連合会は色々なことに挑戦・活躍しようと活動しております。

堀場OBベンチャークラブ(HOVC)からのもっともっと積極的な参画をお願いします。堀場OB会も15年の歴史があります。ぜひ堀場OBの凄い力をKSVUに注いでください。

(船越 健)

京ものづくり殿堂・モノづくり工房学習について

KSVUの京都市の「生き方探求館京モノレンジャー活動」について、最近の状況を報告します。2011年は子供達が自分で工作し、出来たものを持って帰れるプログラムを作る事を目指し、企画から、設計、開発、試作をOB会メンバーが知恵を出し合い、温度計工作プログラムを完成しました。

堀場製作所広報室の方で、授業のシナリオを作って貰い11月18日に、初めて授業を行う事が出来ました。今後、ますます、メニューの多角化を図り、コストダウンに工夫して、発展させたいと思います。

前号にも紹介しましたが、今期より工房学習の運営を堀場製作所から受託、OB会の事業として取組む事になりました。

この事業の対応には現在登録のメンバーだけでは対応に無理が生じるため、この活動に多くの会員の参加いただきたくお願い致します。

子供との学習を通しての触れ合いも楽しく、参加者に大きな負荷のかかる活動ではありません。事業内容の確認、メンバー登録等については、担当幹事の酒井俊英さん（下記のメールアドレス）にお問合わせ下さい。

E.Mail sakai727@yahoo.co.jp

OB会行事報告

— 夏の懇親会を開催 —

8月20日（土）「がんこ高瀬川二条苑」で開催された堀場OB会「夏の懇親会」に、東京支部の

一員として、初めて出席させて頂きました。実は若い頃より、高瀬川の水は鴨川から取り込んでいることは知っていましたが、鴨川のどこか



らどの様に取り込んでいるか謎でした。

最近たまたまインターネットで「高瀬川」で検索すると、「がんこ高瀬川二条苑」の庭園からであり、鴨川西沿いの水路「みそそぎ川」で、約350m上流の鴨川から取り込んでいることが判明。堀場本社のOB会でよくご利用のあの料亭かと。そこで、先日お盆の昼食に「がんこ高瀬川二条苑」を予約、久しぶりに集まった家族四人で会食をしたばかりです。その時、庭園と川床からの水路「みそそぎ川」を拝見。今回「夏の懇親会」で、また同料亭に出席させて頂きました。出席された方々は私よりご年配の大

先輩で、御久しぶりの方々ばかり。さらに私が、今話題の環境放射線モニター：ラディーPA-1000の東日本営業担当のこともあって、その話で盛り上がり、あっと言う間の二時間でした。また、皆様の雰囲気、本社OB会の活発な活動が充分感じ取れ、元気を頂いた京都の夜でした。私、現在東京支部の副幹事をやらさせて頂いています。

東京支部の発展に微力ながら尽くしたいと考えておりますので、今度ともどうぞよろしくお願ひ致します。

レジャー例会

一 光明寺で紅葉狩り一

今期第1回目のレジャー例会を12月7日（水）に17名参加により開催しました。

今回は、境内の参道両側にある紅葉が鮮やかに紅葉するのが有名な光明寺を訪れ、光明寺に隣接の料亭「いっぷく亭」で昼食を頂きました。光明寺の紅葉はピークを過ぎ、紅葉狩りの人出も少なく紅葉狩りが出来るか心配でしたが、参道には色鮮やかな紅葉が残っておりほぼ満足な紅葉狩りが出来ました。

昼食は「いっぷく亭」で縁高弁当を頂きました。質、量ともに参加者大満足でアルコールも入り楽しい雰囲気での食事でした。

帰りは満腹の腹ごなしのため、全員、阪急長岡天神、JR長岡京駅まで約3.5kmを歩き途中、旧西国街道の旧石田家住宅に立ち寄り休憩を取りました。石田家住宅は江戸時代末期の建物で街道筋に店を構え、「紙屋」の屋号で和紙などを商っていました。住宅内の喫茶コーナーでわいわいがやがや話が弾み一時を楽しく過ごしました。紅葉狩り、昼食ともに大満足の1日でした。参加いただい

た皆様お疲れ様でした。

レジャー例会は、単なる物見遊山ではなく教養も兼ねて季節に合わせ寺社仏閣などを訪れ、年に数回開催されます。また、昼食は訪問先の名の通った食事処で頂き毎回、参加者の好評を得た企画で行われています。

今まで参加されていない会員の皆様も是非とも参加いただくようお願いします。

◆参加者（敬称略）

川越 幹、小谷（昌）、高橋 義治、下川 博司、丸山 博、矢野 久雄、周田 光男、西尾 勝治、永瀬 貞一、東 信好、森山 晶成、田中 光子、池田 俊明、島田 剛志、藤田 勲、萩原 孝一、山本広太郎



東京支部活動報告

— 15期第4回定例会を開催 —

東京支部は7月22日(金)13:00~TS0 2Fエグゼレントルームで第4回定例会を開催しました。

谷口幹事より①堀場OB会15周年を記念し、過去の議事録、配布資料等に基づき作成した原案に一部訂正、追加し東京支部15年表を制作し見直しをした。②9月8日の社長との懇談会(ホテルニューオータニ すいせんの間)、分析展2011・科学機器展2011展見学(幕張メッセ)の参加者7名を確認した。③10月6日日本社で開催される15周年記念式典の参加者6名を確認した。④16期年間行事表に基づき、日程が了承された。⑤6月10日日本社で開催された幹事会の内容が報告された。東日本大震災のボランティアについて、東京支部として実施すべきかについては、被災地にとって逆に迷惑になることもあり、慎重に扱うべきだとの意見があった。

東京支部として子供達を対象にした物作り体験工作教室については、堀場には一般工作のような格好で好奇心を発展させるような製品がすぐに見当たらない。広報と一体化した楽しい環

境(温暖化)学習等は協賛参加であれば可能性はあるがとの意見があった。

最後に海野副幹事より⑥来年6月1~2日一



泊懇親会(ゴルフ付)について、地図・雑誌の抜粋に基づき埼玉の「かんぼの宿寄居」と観光:川越(小江戸・蔵造り通り)散策が提案された。ほかに長瀬ライン下りの意見があり、検討することになった。以上会議後、定例の「そば処大新」で懇親を深め、喫茶後散会となった。

◆出席者(敬称略)

寺西 英三、村木 泰雄、辻川 毅、土屋 富夫、草鹿 悌二、玉置 健三、谷口 義晴、横井 広秋、海野興一郎

— 16期第1回定例会を開催 —

東京支部は9月30日(金)13:00~14:20 TS0 2Fエグゼレントルームで第1回定例会を開催しました。谷口幹事より「東京支部15年表」完成に伴い、出席者に配布された。次に10月6日に開催される15周年記念総会式典について説明された。16期年間活動行事の内、第3回定例会4月13日(金)を4月20日(金)に変更(京都幹事会と重複するため)する旨説明があり、了承された。



海野副幹事より、東京支店が10月11日新ビルに移転の説明があり、その案内状を出席者に配布された。新事務所の最寄りの駅は、御茶ノ水(JR), 淡路町(地下鉄), 小川町(地下鉄), 新お茶ノ水(地下鉄) 秋葉原(電気街口JR)。12月9日の定例会より新事務所にて行う、次に来年6月の一泊旅行について、御要望のあった長瀬ライン下り(親鼻から長瀬1,550円 約30分)を組み入れ、その後車で川越に向い、蔵作りの町並み散策で計画することで了承された。詳細は次回の定例会で発表することとした。来年5月に東京スカイツリーが完成する見学会を検討し

たいがどうか、オープンが来年5月22日、全て予約制で時間指定の予約で申し込むと3,500円。ちょっと高い。計画に入れるが、オープンしてしばらく様子を見てから日程を決める事にした。最後に、谷口幹事より、9月9日開催の幹事会の議事内容を報告された。

以上会議後、定例の「そば処大新」で懇親を深め、喫茶にてより活発な話題で盛りあがったその後散会となった。

◆出席者(敬称略)

寺西 英三, 村木 泰雄, 土屋 富夫,
草鹿 悌二, 玉置 健三, 谷口 義晴,
横井 広秋, 海野興一郎

— 16期第2回定例会を開催 —

東京支部は12月9日(金)13:00~14:30 に2011年10月11日に移転オープンした、神田淡路町二丁目ビルの新TSO・2階プレミアムルームにて第2回定例会を開催しました。谷口幹事より10月6日に開催された15周年記念総会が報告され、出席された皆さんから感想及び意見をお聞きした。次に11月11日に開催された幹事会の内容が報告された後会員を増やす為の意見が色々出された。また会報の寄稿を東京支部からも800文字写真入りをお願いした。次に海野副幹事より2012年6月恒例の一泊懇親会について、配布資料「堀場東京OB会一泊懇親会(ゴルフ付)」に基づき、計画の詳細説明があり、了承された。東京の会員を増やすため定年者の後フォローをしっかりとやることにした。

最後に、新TSO: 神田淡路町二丁目ビル1F~5F(半分)を3Fの受付、1F.2Fの分析センター及び2Fのプレミ

アムホール等とHORIBAグループの各階を案内、備品等新しく更新された新事務所をご覧頂き、会議終了となった。

会議後、すぐ隣の「オーク」で懇親会(忘年会)を行い、喫茶後散会となった。

◆出席者(敬称略)

寺西 英三, 村木 泰雄, 辻川 毅, 土屋 富夫,
草鹿 悌二, 玉置 健三, 谷口 義晴,
横井 広秋, 海野興一郎



— 堀場社長との懇談会を開催 —

2011年9月8日(木)13:00 ホテルニューオータニ幕張すいせんの間、幕張メッセで開催しました。

出席者は堀場社長、佐藤常務、山下理事、草鹿氏、辻川氏、村木氏、土屋氏、玉置氏、新井氏、谷口氏で、合計10名

今回で3回目となり和気藹々とコーヒとケーキ

を食べてから始まりました。

堀場社長から会社概況の説明を頂き、分析展2011は大盛況であった、OB会でも協力してもらい、会社の内容も知ってもらっている、会社としてもOB会をサポートしていく。売上高5%UP、純利益も5割増といい成績である。各部門共好調で、特に九州工場は地元にも協力いただいている。

放射線モニター、放射能判定キットが売れている。分析展に出展している、一度見てほしい、会議終了後OB会一同幕張メッセに

移動、分析展2011を見学しました。



一 東京設立50周年

拡大OB懇親会を開催

2011年10月16日(日)に熱海温泉において東京設立50周年拡大OB会を開催しました。

平成19年に東京設立50周年になるということで西田敏彦前所長の起案により皆様には一度お集まりいただきました。熱海温泉でお祝いの会を開催する予定でしたが、途中で途切れてしまいました。今年は55年近くになってしまいましたが、再度計画し前東京出張所時代の有志のOBの皆様と湯本温泉、湯本富士屋ホテルで開催のご案内を致しましたが、予約がキャンセルされ、観光シーズンということで箱根と熱海も、大変混雑している中やっと熱海温泉ニュータカハシで開催することができました。

当日は熱海駅に16時に集合し、熱海海岸で有名な、お宮の松近くのホテルに車で到着しました。到着後すぐにこの人はこういうことで来れなかった、

あの人も来れないと、夕食時間を過ぎても話にはずみませんでした。夕食はステーキコースで大変おいしく頂きましたが、メタボ検査中で残した

人も出ました。続いて2次会でも昔話しに話題が広がり、夜中1時まで夢中で弾みました。

寝床についてもまだ足らず続いていました。うるさい中早く寝た人もいました。朝は寝不足の人もいましたが、熱海海岸に昇った朝日が雲



に反射して楕円型に輝き、素晴らしい美しさに目が覚めました。朝食は予定どおりとり、朝風呂に入る人もいましたが、その後解散となりました。

◆参加者：西田 敏彦さん、土屋 富夫さん、玉置 健三さん、田辺 光彦さん、東海 林和子さん、谷口 義晴さん

鴨川は、京都の清流で知られているが、洪水を繰り返す暴れ川であったとは余り知られていない。中島鴨太郎の「鴨川水害史」によると、751年から1950年まで1200年間に200回の洪水に見舞われている。なんと6年毎の頻度。そこで、インターネットで鴨川付近の歴史を調べてみた。

1591年秀吉は、河川氾濫による水侵入防止と治安維持のため、京都中心部を四方堤防(御土居)で囲い、堀を巡らした。東側の御土居は、今の河原町通のすぐ西沿いに設置。

1595年秀吉は、高野山で秀次の切腹後すぐ、その家族、側室、侍女まで三条河原で処刑し、その場に埋葬され、塚・墓石が建てられたが、幾度の洪水で墓石は倒れ荒廃。1611年角倉了以が、高瀬川開削中に墓石を発掘、その場に塚を再建し寺を建立。それが瑞泉寺(三条木屋町下ル)。

1603年四条河原で出雲阿国の女歌舞伎踊りが評判となる。これが歌舞伎の発祥とされている。1615年頃京都所司代は、四条河原に七軒の芝居小屋(櫓)を許可。そのうち六軒は火災等で消滅、南座だけが残った。『四條河原「扁額軌範」(1821)』の絵図に南座と北座の櫓が見て判る。

中井家の絵図『「洛中絵図」(1642)』には御土居と高瀬川が描かれ、東側の御土居内側に多数のお寺が整然と配置されている。秀吉が御土居建設の際、点在したお寺を御土居と通りの間に移転させたことが判る。後に寺町通と呼ばれる。さらに絵図に道幅は狭いが河原町通が見て判る。

1670年上賀茂から五条までの「寛文の新提」が完成。その後、御土居の撤去が進む。瑞泉寺の南から四条通までの高瀬川と鴨川の間細長

い土地に設けた道を当初は「新河原町通」と呼んだ。それがいつしか「先斗町通」となる。同様にして東岸にも宮川町が誕生した。

1935(昭和10)年大洪水発生。死者12名、流出家屋137棟、浸水家屋24,173棟のほか、三条大橋ほか30を超える橋梁が流失する未曾有の被害。

1936(昭和11)年～1947(昭和22)年大規模改修工事。上流から下流までの川床約2mの掘削と上流と下流の堤防強化。1987(昭和62)年京阪電鉄と琵琶湖疎水の地下化。1992(平成4)年～1999(平成11)年三条/七条間の線路部分の川幅拡張工事が行われ、現在の鴨川になる。



京都盆地は太古の昔から鴨川と桂川が氾濫・堆積を繰り返してできた扇状地である。河川は元来氾濫・堆積を繰り返していくうちに、自然堤防ができるが、秀吉が御土居を建設した当時、鴨川の西側の自然堤防に御土居を設けたと考えた方が自然である。次に東側であるが、「縄手」が土手の意味から、縄手通が東の土手と推察する。そうすると、鴨川の川幅は、河原町通の西沿いから縄手通まで約350mにもなる。現在の川幅は、四条通で約75mとなんと1/4以下である。当時の鴨川は伏流水が殆どで、表面の川幅は狭く、水深も浅く、大部分が河川敷で、葎などの雑草が群生する河川敷と想像する。秀

吉の死後、庶民文化が発達し、芝居小屋が東岸の河川敷に建ち、七軒にもなった。その後火災等で消滅し、南座だけが残ったのである。高瀬川は角倉了以が河川敷に作った運河である。その工事の際、秀次一門の墓石を発掘し、その場に塚を再建し瑞泉寺を建立した。その後、河川敷に宅地は増え、御土居の東側に文字通りの河原町通ができる。1670年には寛文の新堤が完成するが、その目的は石材等で護岸強化した土地造成であった。そしてできたのが先斗町と宮川町である。このようにして、いつの間にか川幅が狭くなり、大雨で増水すると、元の河川敷まで洪水になったのである。近年では、1935(昭和10)年の大洪水で未曾有の被害に見舞われた。そこで、翌1936年から11年掛けて大規模改修工事が行われ、さらに京阪電鉄と琵琶湖疎水が地下化され、1999(平成11)年東岸の拡張工事が完成したのである。土地利用で川幅が1/4以下になった鴨川は、昭和の大規模改修工事で、やっと許容量のある川になったのである。よく「鴨川の

河原に建てた〇〇が、今では〇〇町にある。」とあたかも移築したかのような記述があるが、元々河原に建てた〇〇が、河原の市街化で川中



ではなく、街中になっただけである。ところで、OB会でよく使われる料亭「がんこ高瀬川二条苑」は、鴨川から高瀬川への取入れ口に建てた角倉家の別邸跡で、向いも角倉家の邸宅跡である。この辺りも元々鴨川の河原であった。なお、二条苑の数奇屋造りの建物・庭園は、後に引継いだ山縣有朋の別邸時代のものである。

私の免許証 梶並 強平

2回目になる自動車運転高齢者認知講習(ボケ程度のチェック)を受け、自分が十分にボケている事に驚いた。

所で小型四輪車の免許証は掘場製作所に入社後、1~2年してから取得した。会社にあったマツダの自動三輪車(写真)を中新道工場近くにある材木置き場の空地に、毎日持ち出して練習をした。練習の結果、前進は上手に乗れるようになったものの、バックはほとんど出来ないまま、試験場(伏見あたり)に行き試験を受けた。

その日の午後は、土砂降りの大雨で、ジャリ道のコースは、ぬかるみや水溜りが出来、運転がし難いと言うこともあって、わずか数名の者が残って実技試験を受けた。

実技試験では同乗している試験管から「ここ

の坂道はもっとアクセルを踏まないでエンストするぞ」とか「この曲がり角はもっと大きくハンドルを切らないと脱輪するぞ」と教わりながら前進ではなんとかエンストも脱輪もする事なく、うまく乗り切れた。最後の車庫入れでは、案の定大きく脱輪をしてしまい、とんでもない所まで行って止まったが「今日は、天気が悪いのに、よう頑張って試験を受けた。一寸問題があるが、今日は特別にマケトクワ」と言いながら「合格にしとくワ」と小さな声でツブヤイてくれたのを、今でも覚えている。

この様に、いい加減な状況で運転免許証を取得し、その後、ボケ乍らも毎日の様に運転をして、55年になるが、一度も事故はなく(駐車違反だけは、数え切れない程、つかまっている)過ごしているのも不思議である。

所で、これから、気候も良くなり、旅行などで長距離ドライブをすることが多くなる季節になって来ました。

安全運転のためには、日頃の健康管理がかかせませんが、特に高速道路等での「居眠り運転」は危険です。運転中に眠くなったという経験は、ほとんどのドライバーにあるように思います。高速道路を時速80kmで走行している場合、わずか3秒間の居眠りで約70mも進むために、大事故につながりかねません。

安全運転をするためには、日頃の健康管理が必要で、ドライブの前には、睡眠は十分にとっておきましょう。特に高速道路での運転や、無理な追い越しなどの乱暴な運転は、神経が過敏になり、日頃おとなしい人でもハンドルを握ると性格が変わる人がいます。

よその車の割り込みや、追い越しに、すぐカットなるドライバーは少なくありませんが、日頃ストレスが溜まっている人や、精神的に、すぐカット緊張しやすい人などは、次のことを心掛けましょう。

睡眠不足の状態では、絶対にハンドルを握らないように、睡眠は十分にとっておきましょう。

う。ドライブ中は早めの休息を取り、体の緊張をほぐしたりトイレに行くなどして、ストレスを解消する。

万が一運転中に眠くなったら、安全な場所等に車を寄せて、休息しましょう。



日頃、精神的に、カットなりやすい人は、十分自覚をして、ハンドルを握りましょう。過度のストレスをかける危険な運転をしない。よその車に対しては「譲る」気持ちを持ってゆとりある運転をする。

事故のない安全運転をするにはドライブの前には、ストレスや疲れをためないように心掛けることと、時間的にも十分余裕を持って運転する事が大切と思われます。

伏見はロケの町？ 石黒 英憲

OB会の皆様、NHKの朝ドラをご覧になっておられますか？

私はこの4月より週3日の勤務となり、よく見るようになりました。

そこで気付いたことがあります。4月より放送されている「カーネーション」ですが、戦時中の岸和田が舞台になっています。が、そこに岸和田のはずが、伏見の風景が幾度も出てきます。

下記の写真をご覧ください。主人公のヒロイン糸子のアップで出てくる場所（写真1）と、時々一人で歩いている糸子が、通行人（自転車もあり）とすれ違う場所（写真2）などがあり



写真1

ます。この場面が伏見だと気付かれた方はいらっしゃいますか？

伏見には、まだ懐かしい古い街並みが残って



写真2

いるのですね。今回のロケ地は、他の映画などでもよく出てくるところです。そして思い出すのは、40年ほど前に、日活で明治時代を設定した「やくざ映画」を見たことがあります。

「浅草も住みにくくなりましたね。」と、大八車が走り回っているのが、浅草でなく、伏見の町でした。現在もまだそのままの街並みが残っています。また伏見夢工房というところには、伏見のお酒が数多く揃えてあります。店内で、ぐい飲み1杯の清酒を何種類か飲み比べるメニューもあります。

またほかに、前回の大河ドラマの坂本龍馬が新選組の討ち入りで逃げ込んだ薩摩屋敷があります。薩摩藩にかくまわれた後、寺田屋事件で助けてくれたお龍との薩摩への旅立ちが日本初の新婚旅行と言われています。

是非、伏見の町の散策で朝ドラのロケ現場体験などをお楽しみください。

OB会連絡

— 堀場OB会ホームページ紹介 —

堀場OB会のホームページはクラブ活動をはじめ各種の行事案内、活動報告を掲載しています。訪問件数は昨年末で2万件を超え多くの会員に見ていただいていると思います。

より魅力あるホームページにするために会員からのご意見、ご提案をお寄せ下さい。

◆ホームページアドレス

<http://www.h5.dion.ne.jp/~ob-hor/>

◆堀場OB会メールアドレス

horiba.ob@gmail.com

会員にお届けしている会報は、モノクロ版ですが、ホームページにはカラー版の会報を掲載していますのでご覧ください。

ホームページの会報閲覧は個人情報保護のため会員以外の方が閲覧出来ないようにパスワードで保護しています。閲覧は、トップページの「会報」ボタンをクリックするとパスワード入力画面が表示されますので、下記のパスワードを入力していただくと会報のリスト画面に変わります。

◆会報閲覧パスワード horibaob

— 新入会員紹介 —

平成23年10月以降に入会された会員を紹介します。

会員番号1601 青海 隆さん

— 会員の訃報 —

下記の会員が亡くなりました。謹んでご冥福をお祈りします。

平成23年8月8日 駒形元郎さん

— 年間行事計画について —

第16期の年間OB会行事についてはホームページに「年間行事予定表」を公開しています

が、会員の皆様に参加いただく行事を紹介します。

- 鴨川クリーンハイク（年間5～6回の予定）

- 鴨川茶店（4月7日、8日の予定）
- 鴨川納涼（8月4日、5日の予定）
- 工房学習支援（年間：7～8回の予定）
- 一泊旅行（2月24日～25日〈案内済〉）
- 懇親会（夏：8月17日）
- レジャー例会（4月、6月、11月の予定）

開催日が決定した行事についてはホームページまたはメールにて紹介させていただきますので参加いただくようお願い致します。

行事内容の詳細は、事務局にお問合せ下さい。

◆事務局 山本広太郎

E.Mail : h.yamamach@gmail.com

－ O B 会設立15周年記念誌作成プロジェクトについて－

堀場OB会は今年で設立15周年を迎え、先日、年次総会と同時に記念式典が開催されました。設立15周年を節目として設立以来の活動を記念誌にまとめ発行する事になり、この度、記念誌プロジェクトを立ち上げました。

記念誌の内容としては、過去の行事（年次総会、レジャー例会、工場見学会、旅行（日帰り、一泊）関係、懇親会、ボランティア活動、キャリア活動等、OB会設立以降の堀場製作所

と対比した年表、東京支部活動の記録、年表等を掲載する事にしています。

プロジェクトメンバーがそれぞれのテーマを担当し、情報、資料集めを行い記念誌のレイアウト検討等を進め、4月～5月の発行を目途に集中的に取り組んでいきます。

記念誌は現状の会報スタイルのカラー版で考えていますのでご期待ください。

－ 事務局連絡－

第16期年次総会において堀場OB会を設ける事が承認されました。

会員の増加、事務量の増加に伴い、分散していた事務処理を一元的に事務局で対応します。

今後、会員からの問合せ等については事務局に連絡いただき、内容により担当幹事に処理をお願いし回答させていただきます。

- 行事内容についてのお問い合わせ

- 外部からの問合せに対するフォロー
- 訃報の連絡
- ホームページに対しての質問、提案等
- OB会の運営、その他

◆事務局担当 山本広太郎

〒525-0057 草津市桜ヶ丘1-8-6

TEL/FAX : 077-563-2944

E.Mail : h.yamamach@gmail.com

－ 会報・ホームページへの寄稿要領について－

会報への寄稿文、ホームページへのクラブ活動、ボランティア活動等の諸活動報告をされる場合に長文では取扱いに苦慮する場合があります。

このため、文字数の上限を下記の通り取決めさせていただきますので協力いただくよう宜しくお願い致します。

◆会報へ寄稿文

1500文字以内（写真を1枚～2枚添付して下さい）

◆ホームページへの活動報告

800文字以内（写真を1枚～2枚添付して下さい）

会報、ホームページ共に文字だけでは読者に伝える力が弱く、写真によって情景を読者に印象付けるものであり、必ず写真を添付いただくようお願い致します。

活動報告は行事終了後、報告いただくようお願い致します。

◆寄稿文の募集

会報に掲載する寄稿文を募集しています。テーマは特に決めていません。

<旅行の感想>、<地域での活動>、<地域の

社寺仏閣の紹介>、<地域の祭り>など身近なテーマを気軽に寄稿いただきますようお願い致します。

投稿者にはささやかながら「図書カード」を進呈させていただきます。

会報は毎年1月と7月に発行しますので11月、5

月を目途に提出いただくようお願い致します。

◆著作権について

- ・書籍から引用の時は出典を明記して下さい。(発行元、書籍名、著者)
- ・新聞からの文面、写真の引用は新聞社の承認を必ず得て下さい。

ホリバ・ニュース・やぶにらみアラカルト

・環境放射線モニター増産体制整う

PA-1000 Radi(ラディ)が被災地の学校や自治体などへ、いち早く届けられるよう月産8000台もの生産能力が整えられました。他社にも同類製品のある中で、ホリバの製品が価格ではなく、品質が信頼され公共団体にも受け入れられていることは、命の絆として我々の大いなる誇りと思います。

・新pHメーター大好評

LAQUA F-70シリーズが春に発売され大好評ですが、販売システムも「クロス販売」といって、本体と各種電極のセットバリエーションを30セットまで拡大して、顧客にぴったりのシステムが選択出来、価格もお得になりました。これは営業から物流までの改革の成果が大いに期待されます。

・堀場社長が初の著書を出版

この度、堀場社長が「京都の企業はなぜ独創

的で業績がいいのか」を出版されました。

堀場社長からのメッセージとして“これまでわたしが経験したことや、普段思っていることをまとめたものです。経営者への指南書ではなく、「自分のあり方を考える」ことが出来る内容です”と述べられています。OB会も発売当日、町の本屋に平積みされているのを見つけ早速購入しました。今は、HOCOMにて特別価格で販売されています。

・東京新事務所が開設・・・神田淡路町へ

悲願であった、山手線の内側にオフィスを持つことが実現しました。これは首都圏の販売・サービス体制、ショールーム機能、ホリバブランド情報の発信力等の強化が目的ですが、なによりもお客様が気軽に立ち寄って頂ける、すなわち顧客に近づくことが出来るようになったことでしょう。皆さんも東京に行かれたら是非とも立ち寄ってください。

編集後記

平成23年10月6日、年次総会とともにOB会設立15周年の記念式典が成功裏に挙行できましたことは、堀場製作所OB会の一時代の区切りとなりました。今第16期は装いも新たにOB会はスタートしました。

「社会への貢献と会社への協力」をコンセプトとして、さらに諸活動が活発化しつつあります。実際の活動状況はホームページで速報されているとおりで、ご理解いただいていると思います。

そこで、会報について考えますと、速報で足りるものは、掲載するまでもないものもあり、

会報とホームページの棲み分けの必要性が持ち上がってきています。

今後のOB会の性格付けにも関係すると思いますが、会報はむしろ、皆様一人ひとりのお考えや、お住まいの地域の状況等についての寄稿文を主体として埋めつくしたいのです。そうすれば、今よりは血の通った会報になり、そのなかで何らかのヒントが数多く得られるのではないのでしょうか。今期は「事務局」が明確になりました。皆さんから寄稿文をどんどん投稿してください。今年は、辰年、昇竜の年です。皆様の益々のご発展を祈念いたします。(編集局)

* 堀場製作所OB会 *
* 〒601-8510 *
* 京都市南区吉祥院宮の東町2番地 *
* 株式会社 堀場製作所内 OB会室 *
* URL <http://wwwh5.dion.ne.jp/~ob-hor> *
